

## ◆ 今週のコメント

- ・ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が1例(40歳代女性1例)あり、本年の累積報告数は11例となっています。症状は尿路感染症です。推定感染地域は国内で、推定感染経路は尿路カテーテルです。
- ・ 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(90歳代男性)あり、本年の累積報告数は26例となっています。症状は肺炎および菌血症です。推定感染地域は国内で、推定感染経路は本人の咽頭保菌です。
- ・ 手足口病の定点当たり報告数は1.98(83例)となり、前週0.93(39例)よりも増加しました。第12週以降、5週続けて京都市過去5年平均値を上回る状況となっています。例年、夏にかけて流行しますので、流水と石けんで十分に手洗いを行うなど予防を心掛けてください。手洗いの方法などについては、下記のホームページを御参照ください。

○京都市衛生環境研究所ホームページ「手洗いの方法」

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000197/197526/tearai.pdf>

○京都市衛生環境研究所ホームページ「こどもの感染症リーフレット(手足口病)」

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000197/197526/teashikutibyou.pdf>

## ◆ 今週のトピックス:<梅毒>

- ・ 全国における梅毒の報告例は増加傾向にあり、平成29年第1週から第16週(平成29年1月1日～4月23日)に診断され、報告された累積数は1,404例で、昨年同時期(1,174例)の約1.2倍でした。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 10例(肺結核 5例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 5例)うち喀痰塗抹陽性 3例  
【1月以降の累積報告数 113例(肺結核 56例, その他結核 12例, 潜在性結核感染者 45例)うち喀痰塗抹陽性 27例】
- ・ 五類:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 11例】
- ・ 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 26例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点42, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	2.23	154
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	7.79	327
	② 手足口病	1.98	83
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.69	71
	④ 水痘	0.52	22
	⑤ 突発性発しん	0.48	20
眼科	流行性角結膜炎	0.70	7

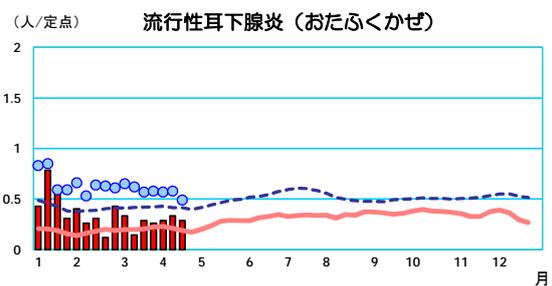
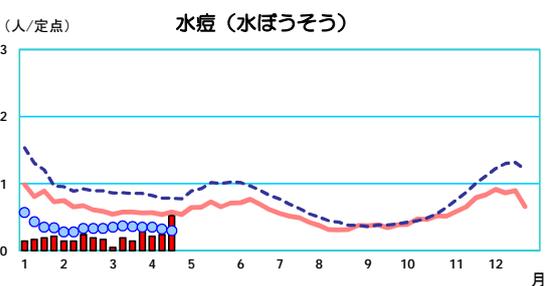
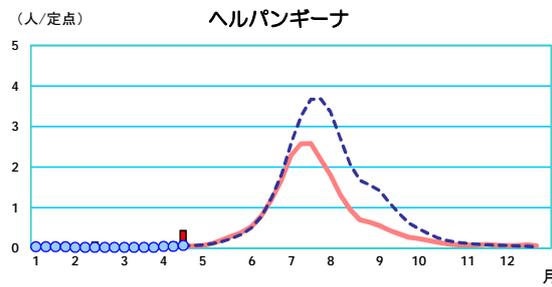
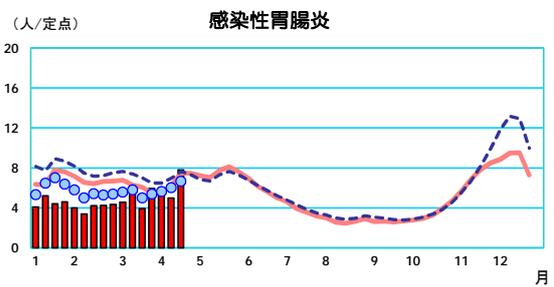
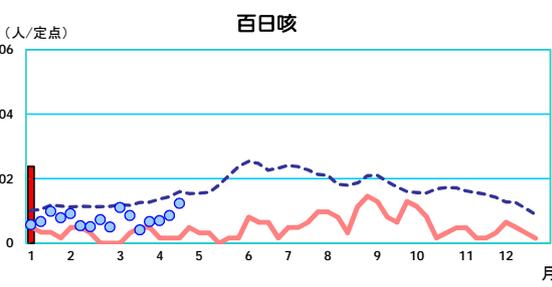
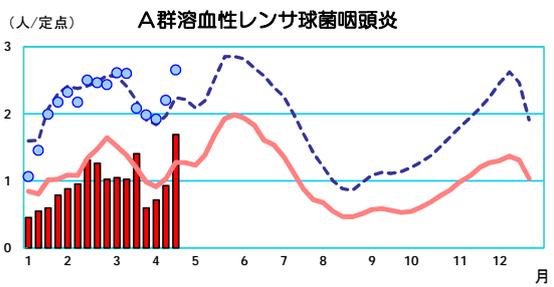
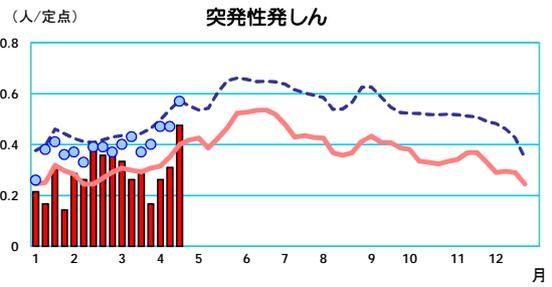
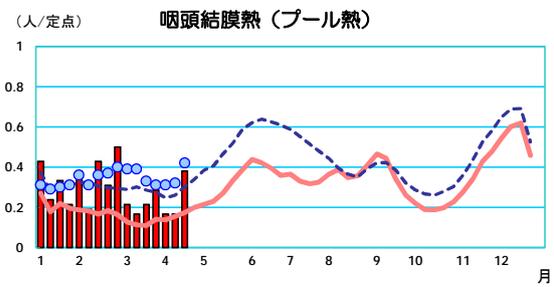
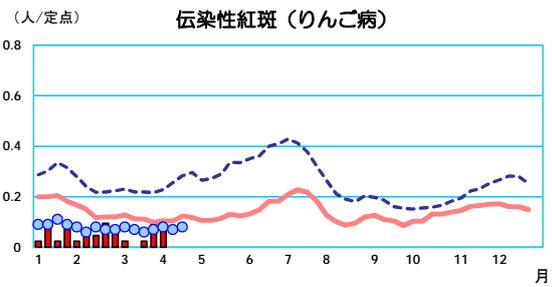
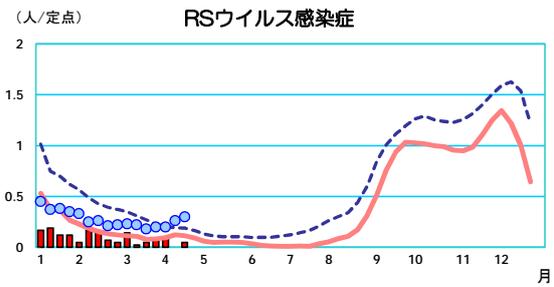
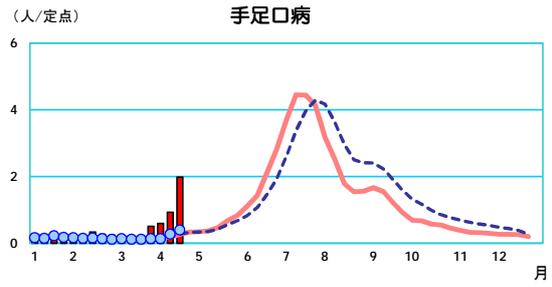
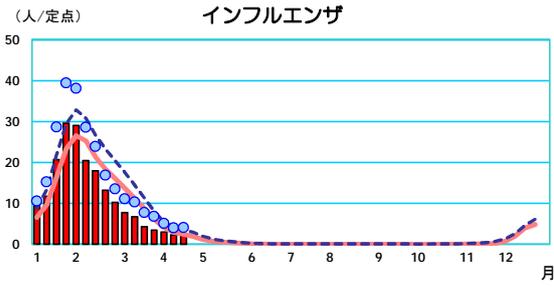
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<梅毒>

付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注)京都市のデータは、平成29年4月26日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

# インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成29年）



## 第16週(4月17日～4月23日)トピックス: <梅毒>

全国における梅毒の報告例は増加傾向にあり、平成29年第1週から第16週(平成29年1月1日～4月23日)に診断され、報告された累積数は1,404例で(図1)、昨年同時期(1,174例)の約1.2倍でした。本市でも全国同様に増加傾向にあり、過去5年間の週別累積報告数を見ると、最も早いペースで増加し、14例となっています(図2)。性別年齢別では、男性は50歳代が多くを占め、女性は20歳代のみ報告されています(図3)。

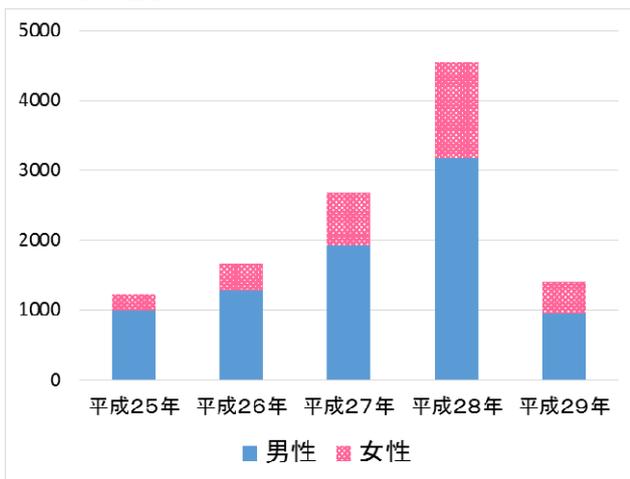
本疾患は梅毒トレポネーマという病原菌が原因の感染症で、感染すると全身に様々な症状が出ます。主な感染経路は性的接触です。早期の薬物治療で完治が可能ですが、検査や治療が遅れたり、治療せずに長期間経過すると脳や心臓に重大な合併症を引き起こすことがあります。また、妊婦が感染すると、胎盤を通じて胎児に感染し、流産や死産、新生児に肝腫大や骨異常等の症状を呈する先天梅毒の原因となります。近年、全報告数における女性の割合、特に20歳代の報告例が年々増加しており、これに伴い、先天梅毒の報告例も増加傾向にあります(図4)。とりわけ胎盤が形成される妊娠16週以降の胎児が感染すると、先天梅毒の発症リスクが高くなります。母親が妊娠期間中に治療を受けない場合、4割の胎児が死に至る可能性があると言われています。

感染予防には、性交時のコンドームの使用が有効とされています。早期の薬物治療で完治することから、早期発見が重要です。特に妊娠可能な若年層の女性は、早期発見が重症化予防だけでなく先天梅毒を予防することにも繋がります。梅毒の検査は医療機関でもできますが、本市ではHIV検査と同時に梅毒を含む性感染症検査を行っています(下記URL参照)。また、妊娠中の方で感染が疑わしいときや感染がわかったときは、かかりつけ医に速やかに相談し、医師の指示に従い、治療を受けましょう。

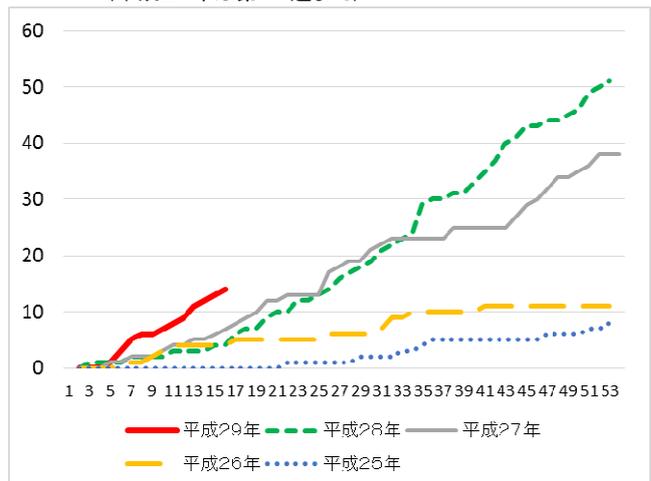
○京都市情報館「京都市のHIV検査について」

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000047908.html>

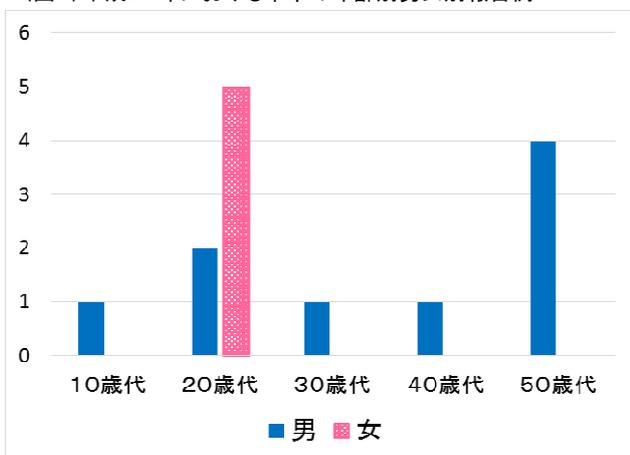
(図1) 全国の報告数(平成25年～平成29年第16週まで)



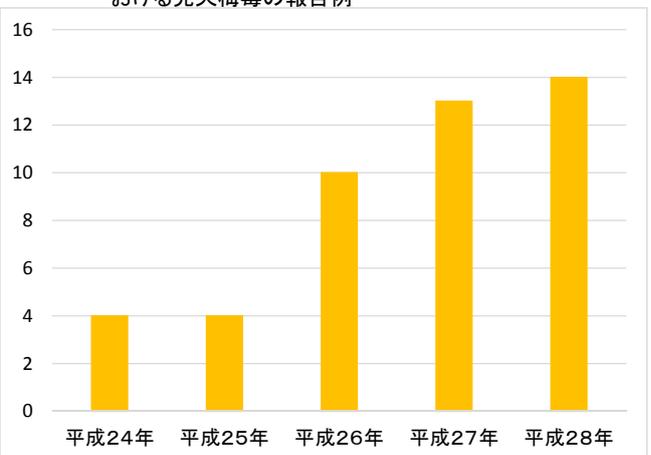
(図2) 本市の過去5年間に於ける週別累積報告数(平成29年は第16週まで)



(図3) 平成29年に於ける本市の年齢別男女別報告例



(図4) 全国の過去5年間(平成24年～平成28年)に於ける先天梅毒の報告例



※(図4)は病原微生物検出情報(Vol.36 No.2(2015.2)及びVol.38 No.3(2015.3))を元に作成

T3201

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成29年第16週

疾病,行政区別報告数

平成29年4月17日～平成29年4月23日

データ入手日:平成29年4月26日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘルパンギーナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細 菌 性 髄 膜 炎 (※2)	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	ク ラ ミ ジ ア 肺 炎 (※3)	感 染 性 胃 腸 炎 (※4)	
男女合計																				
北	11	-	1	1	2	-	1	-	-	-	1	1	-	2						
上京	4	-	-	2	18	-	2	-	2	-	-	2	-	1						
左京	17	1	1	12	44	5	-	-	1	-	-	1	-	-						
中京	4	-	1	4	10	2	3	-	1	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	9	-	-	-	10	1	2	-	-	-	-	-	-	-						
山科	20	-	-	2	3	1	8	-	3	-	-	2	-	3						
下京	5	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-						
南	16	-	1	11	24	5	12	-	1	-	13	1	-	-						
右京	22	1	1	16	54	3	9	-	6	-	1	2	-	1						
伏見	24	-	2	14	88	4	43	-	5	-	-	-	-	-						
西京	22	-	9	8	72	1	3	-	1	-	-	1	-	-						
京都市計	154	2	16	71	327	22	83	-	20	-	18	12	-	7	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘルパンギーナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細 菌 性 髄 膜 炎 (※2)	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	ク ラ ミ ジ ア 肺 炎 (※3)	感 染 性 胃 腸 炎 (※4)	
男女合計																				
北	1.57	-	0.25	0.25	0.50	-	0.25	-	-	-	0.25	0.25	-	2.00						
上京	0.80	-	-	0.67	6.00	-	0.67	-	0.67	-	-	0.67	-	1.00						
左京	2.43	0.25	0.25	3.00	11.00	1.25	-	-	0.25	-	-	0.25	-	-						
中京	0.80	-	0.33	1.33	3.33	0.67	1.00	-	0.33	-	1.00	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	3.00	-	-	-	5.00	0.50	1.00	-	-	-	-	-	-	-						
山科	2.86	-	-	0.50	0.75	0.25	2.00	-	0.75	-	-	0.50	-	3.00						
下京	1.67	-	-	0.50	1.00	-	-	-	-	-	-	0.50	-	-						
南	3.20	-	0.33	3.67	8.00	1.67	4.00	-	0.33	-	4.33	0.33	-	-						
右京	2.75	0.20	0.20	3.20	10.80	0.60	1.80	-	1.20	-	0.20	0.40	-	1.00						
伏見	2.18	-	0.29	2.00	12.57	0.57	6.14	-	0.71	-	-	-	-	-						
西京	2.75	-	1.80	1.60	14.40	0.20	0.60	-	0.20	-	-	0.20	-	-						
京都市計	2.23	0.05	0.38	1.69	7.79	0.52	1.98	-	0.48	-	0.43	0.29	-	0.70	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3202

### 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成29年第16週

年齢階級, 疾病別報告数

平成29年4月17日～平成29年4月23日

データ入手日:平成29年4月26日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	154	-	2	9	4	9	7	9	11	10	6	6	17	17	7	16	6	3	5	5	5
RSウイルス感染症	年齢2	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	年齢3	16	-	-	7	3	3	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	年齢4	71	-	-	2	3	4	8	9	8	6	8	6	9	-	8	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	年齢1	327	5	44	58	42	32	28	23	20	9	5	10	22	4	25	-	-	-	-	-	-
水痘	年齢2	22	-	1	4	2	3	3	-	1	2	2	1	-	-	3	-	-	-	-	-	-
手足口病	年齢3	83	-	11	50	8	7	2	1	1	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	年齢1	20	-	8	10	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	年齢3	18	-	2	8	2	-	1	1	1	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	年齢4	12	-	-	-	-	-	3	-	1	3	-	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	年齢2	7	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	1	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	2.23	-	0.03	0.13	0.06	0.13	0.10	0.13	0.16	0.14	0.09	0.09	0.25	0.25	0.10	0.23	0.09	0.04	0.07	0.07	0.07
RSウイルス感染症	年齢2	0.05	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	年齢3	0.38	-	-	0.17	0.07	0.07	-	0.05	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	年齢4	1.69	-	-	0.05	0.07	0.10	0.19	0.21	0.19	0.14	0.19	0.14	0.21	-	0.19	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	年齢1	7.79	0.12	1.05	1.38	1.00	0.76	0.67	0.55	0.48	0.21	0.12	0.24	0.52	0.10	0.60	-	-	-	-	-	-
水痘	年齢2	0.52	-	0.02	0.10	0.05	0.07	0.07	-	0.02	0.05	0.05	0.02	-	-	0.07	-	-	-	-	-	-
手足口病	年齢3	1.98	-	0.26	1.19	0.19	0.17	0.05	0.02	0.02	-	-	-	0.05	-	0.02	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	年齢1	0.48	-	0.19	0.24	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	年齢3	0.43	-	0.05	0.19	0.05	-	0.02	0.02	0.02	-	0.02	-	-	-	0.05	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	年齢4	0.29	-	-	-	-	-	0.07	-	0.02	0.07	-	0.10	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	年齢2	0.70	-	-	0.10	-	-	0.10	-	-	-	-	-	0.10	-	0.10	-	0.20	0.10	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成29年第16週

週, 疾病別報告数

データ入手日:平成29年4月26日

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		465	295	240	208	158	154
RSウイルス感染症		1	2	3	4	-	2
咽頭結膜熱		7	9	12	7	7	16
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		43	59	25	30	39	71
感染性胃腸炎		251	165	250	227	209	327
水痘		8	6	12	9	10	22
手足口病		3	7	21	25	39	83
伝染性紅斑		-	1	4	4	-	-
突発性発しん		11	12	7	11	13	20
百日咳		-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		3	-	2	1	6	18
流行性耳下腺炎		6	12	11	12	14	12
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		5	5	5	3	8	7
細菌性髄膜炎 (※2)		-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)		-	-	-	-	-	-
合計		803	573	592	541	503	732

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		6.74	4.28	3.48	3.01	2.29	2.23
RSウイルス感染症		0.02	0.05	0.07	0.10	-	0.05
咽頭結膜熱		0.17	0.21	0.29	0.17	0.17	0.38
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.02	1.40	0.60	0.71	0.93	1.69
感染性胃腸炎		5.98	3.93	5.95	5.40	4.98	7.79
水痘		0.19	0.14	0.29	0.21	0.24	0.52
手足口病		0.07	0.17	0.50	0.60	0.93	1.98
伝染性紅斑		-	0.02	0.10	0.10	-	-
突発性発しん		0.26	0.29	0.17	0.26	0.31	0.48
百日咳		-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.07	-	0.05	0.02	0.14	0.43
流行性耳下腺炎		0.14	0.29	0.26	0.29	0.33	0.29
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		0.50	0.50	0.50	0.30	0.80	0.70
細菌性髄膜炎 (※2)		-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)		-	-	-	-	-	-
合計		15.17	11.28	12.24	11.17	11.11	16.53

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。